



ちょっと素敵な話  
No.13

この仕事を続ける理由

福成会でのスタートは、アルバイトからでした。

私は福祉系の大学に行っていたので、実習にも行っていたのですが、実習ではわからない現場での仕事、私に何ができるのか不安でいっぱいでした。

少し慣れた頃、急に職員になれるチャンスがありました。

新しい配属先の事業所は、下請け作業を主に行っていました。今まで作業なんてしたこともないし、利用者さんと一緒に仕事をおこなうことも、どういうことなのか分かっていませんでした。

何をしたら良いのか分からずにいると、先輩職員から、「手順はAさんに教えてもらえばいいよ。」と言われ、ある利用者さんから作業を教えてくださいなうことになりました。

作業は職員が教えるものだとばかり思っていたので、申し訳ないような、なんとも言えない複雑な気持ちになりました。

Aさんは、「恥ずかしいわー。嫌やわー。」とおっしやられながらも、作業の手順を教えてくださいました。横でずっと見られているだけでも、緊張されたことと思います。それでもすっかり見せて下さり、私に「分かりますか？」と声もかけてくださいました。

その方の支援をさせていただき、支援をすることは支援する側も教えてもらうことがたくさんあるということを知りました。また、他の利用者さんも作業に対してすぐくひたむきに取り組んでおられました。

社会人になったばかりの私は、利用者さんから本当にたくさんのお話を学ばせていただきました。

それから何年もの間に、たくさんの方と出会いました。

新しい出会いの分だけ、新しい学びがありました。

日々、利用者さんから色々なものをいただいている分、お返ししていけるようにしていきたいと思っています。